

熊野町のいしぶみとたぐね 第6回

～ 明治期の熊野筆の先駆者達 ～



▲片川仁一郎碑（呉地四丁目2番付近）
明治42年8月建立
高さ：124cm、幅：50cm、奥行：23cm



▲牟田静流翁碑（呉地八幡神社内）
明治31年仲春建立
高さ：200cm、幅：120cm、奥行：23cm

明治期における熊野筆の繁栄

熊野筆は明治の十年代までは、その販路も比較的限定されたものであったようです。明治二十年代に入ってから販路も全国的に広がり、生産量も増加し、飛躍的に繁栄しました。当町の記録によると「毛筆は近年価格も高騰し、工業者も増加せり、販路も拡張し盛況の趣あり」と表してあります。

明治10年には、東京で勸業博覧会が開催され、熊野から西尾平助氏が毛筆を出品し入賞しました。また、明治44年の大日本文具教育博覧会に、熊野問屋組合の26名が毛筆を出品し、好評を博したとのことでした。

筆産業は繁盛を極め、兼業者も他業を辞め専業となり、このような傾向は、日清戦争（明治27、28年）を契機に次第に広がっていったようでありま。

牟田静流氏

毛筆業の発展のために大切な要素であった書道教育の充実には、初期の毛筆業には大きな影響を持っていました。

片川仁一郎氏

明治33年に小学校令の改正、義務教育は4年となりましたが、この頃から日本の教育は制度整備等著しく向上し、就学率も増加しました。その中で特に熊野町の書道教育に尽力されたのが、牟田静流氏であります。明治36年には入門者数百数十名にも及び、門人より敬愛されたとのことでした。

明治になると急速な筆産業の発展のため、筆職人の技術習得が間に合わず「熊野筆は安からう、悪からう」との汚名が全国に広がりました。

これに対し、筆づくりの技術の改良に尽力したのが片川仁一郎氏です。碑には明治初期より毛筆製造販売業を起し、明治11年には鹿兒島市に店舗を開店し、毛筆の品質向上に尽くし、九州各地に熊野筆の信用と販路を広げるために、東奔西走された功績が記されてあります。

取材／民法・時光・片川・沖田

議会・委員会活動等紹介

産業建設委員会を開催

7月18日に産業建設委員会を開催した。建設部・水道部による昨年度の主要事業の実績報告及び、今年度の主要事業の実施計画について、それぞれ説明を受け、それに対し委員から町執行部に対して質問をするという形で協議は進められた。

その後、現在工事中の町道深原公園線及び町道出来



▲委員会室で説明を受けるようす

庭川角中央線を現地視察し、工事の進捗状況について伺うとともに、現地で気が付いた事項などについて質問等を行った。

総務厚生委員会を開催

7月30日に総務厚生委員会を開催した。

総務部・民生部から、昨年度の主要事業の実績報告及び、今年度の主要事業の実施計画について説明を受け、委員からは、コンビニ収納の現況や介護認定についてなど多くの質問が挙げられた。

現地視察では、今春完成した小規模多機能型居宅介護事業所「たいよう」（平谷地区）を訪問。施設について説明を受けながら、意見交換などを行った。



▲介護事業所「たいよう」を現地視察

文教委員会を開催

9月25日に文教委員会を開催した。

初めに教育長から、今年度の主要事業の進捗状況と今後の執行計画について説明を受けた。その後、広島県「基礎・基本」定着状況調査及び全国学力学習状況調査の結果の報告等も受け、それぞれ質問を行った。

またその後、熊野第四小学校及び熊野高等学校を訪問。それぞれの校長より学校の説明を受けた後、授業参観を行い、第四小学校で

は、低学年の書道科を始め全学年の授業を見学し、熊野高等学校では、芸術類型の授業を見学した。校長からは学校教育における要望を伺い、意見交換等も行った。



▲委員会室で説明を受ける様子

熊野町を視察訪問

■神奈川県秦野市議会

10月10日「書道教育について」



■熊本県津奈木町議会

10月16日「熊野筆を生かした地域創生について」

